優秀賞　「都市景観の日」実行委員会 会長賞

景観絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」
～八王子中心市街地のフロートビジョンと実現に向けたアクション～

活動エリア　東京都八王子市 八王子まちなか（中心市街地・景観誘導地区）

応　募　者　八王子市、八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ・景観デザイン会議

活動概要

絹産業を基盤に発展し、"桑都（そうと）" と称された八王子。中心市街地では、すでに芽生えている「魅力的な場所」や「魅力的な活動」が市民に共有されていないことが、景観づくりにおける課題であった。

景観づくりの目標像とその実現手法の検討にあたって、「八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ・景観デザイン会議」を開催し、地域の活動に携わる地元関係者等や大学生、専門家が参加した。まち歩きや学生提案を経て、あえて市の計画等に位置づけないフロートビジョン（関わりたい人を惹きつけるようなエリアの価値や光景を積極的に示した将来像）という計画メソッドを採用し、誰もが気軽に読めるよう景観絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」としてまとめた。

景観絵本発行後は、実現に向けた迅速なアクションを起こすため、市内大学と連携した取り組みの実施や、地域社会と対話の場を設け、景観絵本を活かした協働による景観づくりを実践している。

審査講評

この景観絵本を、計画の挿し絵と捉えてしまうとその価値が正しく理解できない。桑都八王子のまちなかには、古い商家や花街の歴史を活かし、新しい住民をも意識した景観まちづくりのさまざまな種が芽吹いている。『景観みらいものがたり』はこうした萌芽をシーンに落とし込んで編集し、まち全体のストーリーとして示したものである。ひとつひとつの取り組みがシーンの中に描かれることで関係者が勇気づけられる。取り組みの目標像が具体的なイメージとして共有され、実現に向けてはずみがつくだろう。統一的な解釈が前提となる文字で表現された計画ではこうはいかないが、絵本であればそれぞれ注目する場所は異なり、可能性が広がっていく。

八王子の取り組みから「景観まちづくりとは、関係者それぞれの未来像を共有し、折り合いをつけ、互いに共鳴し、その場所の歴史文化に根ざしたストーリーと空間を作っていく編集作業である」ということを改めて意識させられた。景観行政の最終目的は「きれいな街並みを作るためのルールを作って運用すること」ではないのだ。

実現できるのかと疑問視されたアイデアもあったが「30年後ですから」と理解を求めたという。だが八王子の『景観みらいものがたり』のほとんどは、30年もかからずに実現するだろう。（福井）

地元関係者等や大学生、景観デザイン会議のメンバーが参加した「八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ」。

大学生と「まちの魅力再発見」をテーマにまち歩き。

景観絵本をきっかけに良好な景観づくりを実践。「そめる」プロジェクトでは「はち」をモチーフにしたフラッグを掲出し、まちなかを彩る。

「アシナミドリ」プロジェクトでは、地元造園業者による植栽方法のレクチャーのもと参加型イベントを開催。